

「第4期淀川区地域福祉推進ビジョン」(案) に対するご意見への回答

通し 番号	主な内容	ご意見の要旨	ご意見に対する本市の考え方
1	(p.4) 第2章1 「淀川区の人口推移」のグラフについて	棒グラフのそれぞれの上に合計数(人口数)を書き加えてはどうでしょうか。	貴重なご意見ありがとうございます。ご意見に基づき、グラフ「淀川区の人口推移(人)」の令和3年から令和7年の各棒グラフに合計数を加える形で修正させていただきます。
2	(p.17) 第3章 「課題解決に向けた取り組み方針」について	「障がい者の状況について」(11ページ)に、療育手帳や精神障がい者保健福祉手帳の所持者が増加傾向にある、と指摘しているのに対して、取り組み方針はすこし不十分ではないかとおもいます。特に、こころの健康に関しては、子どもから現役世代、高齢者へと全世代にわたって社会問題になっているところであり、また行政だけでは対応しきれない分野でもあるので、学校・企業・医療機関・福祉施設・社会福祉協議会・地域包括支援センター・NPO・ボランティアなどが幅広く連携をとっていく必要があると考えます。	<p>貴重なご意見ありがとうございます。ご指摘のとおり、区としても、こころの健康に関する課題は子どもから高齢者まで全世代に関わる社会的課題として認識しており、引き続き関係機関で連携し取り組んでまいります。</p> <p>なお、今回の「淀川区地域福祉推進ビジョン」では、現状や課題を踏まえ、生活困窮者支援、要援護者のひきこもり・社会的孤立への取組、切れ目のない子育て支援、がん予防・介護予防を重点項目として整理したものです。ご理解いただきますようお願いいたします。</p> <p>療育手帳や精神障がい者保健福祉手帳の所持者については、今後ニーズを把握し、必要な支援に取り組んでまいります。</p>

<p>3</p>	<p>(p.22) 第3章3 「淀川区版「ネウボラ」の推進／関係機関の連携強化」について</p>	<p>「保健分野と福祉分野の連携」はとても大切だと考えます。児童いきいき放課後事業や児童クラブ、子ども食堂なども子どもたちの居場所づくりに大きく貢献しているので、これまで以上に連携していく余地はあるかとおもいます。広く区民に周知をお願いします。</p> <p>加えて、市立（府立）学校園などでの居場所づくり、スクールカウンセラーとの連携といった教育分野との連携もさらに図ることを記してほしいとおもいます。また地域で子どもを育てるという視点からも、学校協議会がさらに充実していき、子どもたちの学校での様子が地域に対して、もっともっと可視化していくことを願います。</p>	<p>淀川区では、こどもを取り巻くさまざまな課題に対応するため、保健分野と福祉分野が連携する淀川区版「ネウボラ」の取組みを推進しています。</p> <p>また、こどもにとって「居場所」は重要であることから、「淀川区こども居場所ネットワーク」と連携し、取組みを進めています。</p> <p>今後も、区内の多様な「こどもの居場所」との連携をさらに強化するとともに、市民の皆さまへの周知にも取り組みます。</p> <p>小・中学校などの教育機関においては、こどもサポート推進員やスクールソーシャルワーカーが学校を訪問し、状況に応じて各種制度や支援につながるなどの支援を行っています。</p> <p>さらに、大阪市教育委員会が進める「校内教育支援センター（スペシャルサポートルーム）設置支援事業」や、当区独自の「不登校児童生徒支援事業」を活用し、学校の中で安心して過ごせる居場所づくりを進めています。</p>
----------	--	--	--